

74

米国カリフォルニア州立大学サンフランシスコ校
医学部図書館所蔵の日本古医書の概要

梶谷 真司

帝京大学外国語学部

現在、日本学術振興会より科学研究費の助成を受けて「米国国立医学図書館所蔵の日本古医書の研究・目録・データベースの作成」(代表：順天堂大学名誉教授酒井シヅ)というプロジェクトが進行中である。これは、以下の二つの目標をもつ。

- ① 米国医学図書館に所蔵されている日本の古医書の調査、ならびに、目録を作成し、それを日本のみならず、世界各国で利用できるようにする。
- ② それらは第二次大戦後に各図書館が収集したものであるが、どのような経緯で日本から出て行ったのかを明らかにする。

このような作業を通して、日本の古医書世界的な分布を把握するとともに、近代以前の日本の医学の実態を研究するための確固たる基礎を築くことを目指す。

調査対象となるのは、ワシントンDCにあるアメリカ国立医学図書館(NLM)、カリフォルニア大学サンフランシスコ校(UCSF)医学部図書館がメインで、その他、議会図書館、イェール大学、コロンビア大学などでの調査も行っている。

今回の発表は、上記図書館の中で、目録や電子データがないため、最も実態が把握されていないカリフォルニア大学サンフランシスコ校医学部図書館の所蔵品について、その概要と構成、来歴などについて報告する。

2007年夏と2008年春の2回にわたる調査の結果、このUCSFコレクションに含まれるのは、総点数およそ2,040点であり、和漢書約1,500点、器物31点、版画・絵・巻物447点、洋書57点から成る。和漢書の規模では、NLMに次ぎ、版画・絵を入れると、これを凌駕する充実ぶりである。

この蔵書の成立については、2008年の春に調査にいったさい、それに携わった日本人司書、南敦美さんとお会いし、インタビューすることができ、多くのことが分った。南さんは1956年~91年の間、同図書館に勤務し、当時の図書館長サンダース氏の指示で、1963年に日本の古書を買付けに来日したのがコレクションの始まりである。サンダース氏は医学史に関心が強く、潤沢な資金を資料の購入に回してくれたらしい。その後、1964年、1967年の計3回、日本で買付けし、以後はカタログや古書店からの連絡をとおして、南さんが退職するまで購入は続いた。

そのさい南さんが意識したのは、研究・教育のためのコレクションにすることであった。したがって、珍しいもの、貴重なものに重点を置く博物館や好事家のような支店からは収集されていない。これがこのコレクションの最も大きな特徴であろう。具体的に言うと、

- ・字が読めないアメリカ人でも分かるように版画や絵の入った本が多い(解剖存真図、平次郎解剖図のほか解剖関係が4点、その他、歌川国芳・芳虎・芳宗、川原慶賀らの版画、絵がある)。
- ・版画、ポスターなどは、江戸から明治までのものすべてが、医療関係のものである。
- ・年代、内容いずれの点でも、バランスよく資料が集められている。古いものでは、平安末期のもの、江戸以前のものでも24点ある。また新しいものは戦後まで含まれる。
- ・リプリントやファクシミリ、復刻版のものも、積極的に購入している。
- ・貴重書室と同じフロアにある閲覧室には、日本、中国の医学史を研究するのに必要・有用な文献(雑誌、事典、日中のみならず、欧文の研究書を含む)が大量に開架で設置されている。
- ・購入資金が潤沢であったせいか、善本が多く、またKiuchi(小野蘭山の弟子で本草家の木内政章約100点)、Nakamura(津山の和算家の一人、中村宗節 約180点)、Nakayama(約160点)、Mori(約190点)の名を冠したコレクションがまとまって所蔵されている。

コレクション全体として大きな意義をもち、きわめて貴重な資料も含んでいるようであるが、その詳しい分析、調査は今後の課題である。